

らず即ち藩館を火にして退却せり此時農民の多くは家財を携へて近村へ遁竄せしが浮浪の賊徒奪掠を恣にし且つ火を放ちたるを以て同大字は勿論小島村の一部は烏有に帰し乱後住むに家なく食ふに食なくして兒女は残煙に咽び老は焼後の周圍に佇立して茫然自失為す所を知らず実に慘憺を極めたり（下略）

なお、下手渡藩ゆかりのものとしては、菩提寺の耕雲寺（一二七ページ）と陣屋跡に建てられた懐古之碑があります。

懐古之碑は、明治三十五年旧藩士が中心となつて建てられたもので、内容は、立花家の系譜、筑前岩屋宝満二城の戦い、下手渡への移封、天保の飢饉とその対策、立花藩の気風などです。（全文参照）現在、陣屋跡は桑園ほか畑地になっていて、昔の面影を偲ぶ何ものもありませんが、陣屋の配置をもとにその規模・構えを思い浮かべて下さい。

正三位子爵立花種恭君家範

懐古之碑為立花氏建也奥之下手渡旧為立花氏邑邑之有志者恐遺蹟湮滅胥議建焉立花氏出自漢靈帝初帝之裔阿智使主履仲之朝任藏職世襲至雄略帝任大藏官因賜姓大藏朝臣天慶之亂大藏春實討藤原純友破之以功任筑前守原田秋月等諸族皆其胤也至光緒時居筑後高橋因氏有故背大友氏興舉族從之八世孫鑑種築前岩屋寶満二城從焉有故背大友氏大友氏弑兵伐之力屈乞降乃遷之豐前小倉命族將吉弘鑑理次子鎮種為副鎮種薙髮號紹運驍勇善戰天正十四年島津氏大舉陷大友氏諸城紹運戰死岩屋有二子長日統甫出繼立花氏後改宗茂次日統增承紹運後後改直次及豐臣氏之九州封筑後三池郡城江浦岡五千石命稱立花氏子種次嗣元和七年追錄父祖功割旧封三池郡一萬石賜之叙爵稱主膳正六傳至豐前守種善文化三年轉封奥州伊達郡領下手渡小島小神羽田西飯野飯田石田御代田牛坂山野川十邑居下手渡其子主膳正種温嗣傳至今種恭君請移三池時明治中興之元年九月也立花氏鎮西旧族其在下手渡者不過三世六十年而邑民迄今德其德先是天保七年天下大饑東北最甚種温焦心苦慮救濟備至或求穀四方或減藩士秩祿以賑恤之封內竟不見一人餓莩民之思慕弗能護蓋有所由也余更有進焉當紹運之守岩屋島津氏欲諭降之紹運慷慨仗義不屈使統后固守立花統增退入寶満日我受大友氏厚恩臨危逃難丈夫不為與其徒七百六十三人苦戰授命大友氏賴不亡語不虛乎故奮不遺則民不偷立花氏不忌旧恩故其下亦效之一碑之建吾知其不偶然也銘曰

上施下報 維民之義 時世有變 情誼無替
一疋之石 千古遺愛

正四位勲四等文學博士重野安禪撰

宣齋 立花 碩書

明治三十五年七月